



クマラジュウ 草堂寺と鳩摩羅什

草堂寺は西安城の西南、秦嶺山脈圭峰の北の麓にあり、西安市から約五十キロ離れている。草堂寺の建立は東晋、十六国に溯る。この寺は、後秦の王・姚興のために造営した逍遙園を基礎として修理し、建てられたもので、唐代の宣宗大中九年（八五五）のことであった。

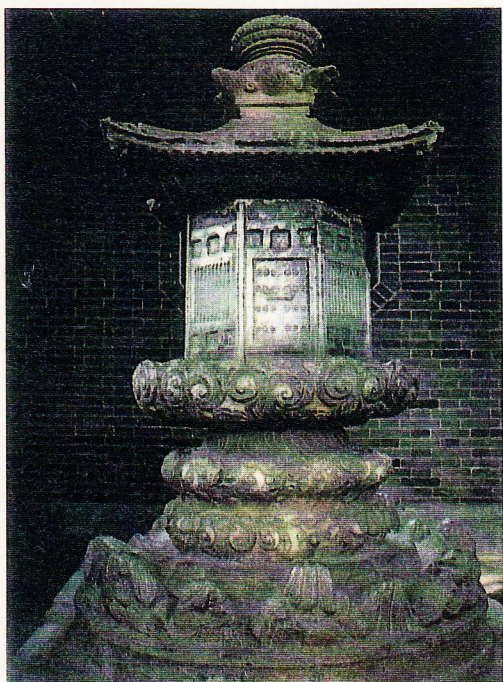
後秦の王・姚興は弘始三年（四〇一）に当時凉州（現在の武威）に滞在していた印度の高僧クマラジュウを国師として長安に迎え、逍遙園に住ませた。クマラジュウは長安に持ってきた多くのサンスクリット經典を逍遙園で姚興及び三千人の弟子と一緒に漢語に翻訳し、校正した。また、クマラジュウは仏教の小乗学、大乘学を明らかにした。従来の中国仏教は後漢の明帝（西歴五八〜七五）の時代に伝来したもので

あるが、まだ、その法教理も決まっていなかったが、クマラジュウは仏教教理を漢語の經文によって明確に仏法論理として成立させた。この經典は合計九十七部四百二十五卷に及び、古代中国に最も早く輸入された大量の外国書籍の翻訳であった。そのため、のちの唐の皇帝太宗李世民はクマラジュウの偉業を讃えて、こう書いた。「十萬流沙来たり振錫、三千弟子共に訳経す…」彼は弘始十五年（四一三）に入寂した。時に七十歳であった。彼は中国に仏教を本格的に伝えた僧である。

彼の死後、草堂寺に堂宇とクマラジュウ舍利塔を建立し、彼の骨灰を奉納した。舍利塔は乳黄色の大理石造りで、高さ二・三三米、八面十二層である。このため、八宝石塔とも称される。

塔身には精巧な浮彫の紋飾があり、美麗であるが、千五百余年を経た今日では貴重な史実の証となって珍重されている。

寺内の殿宇は後年の建物であるが、両側の回廊の壁に二十基の石碑が嵌められている。最も有名なのは第二門の前、碑亭の中に立っている石碑（定慧禅師伝法碑）である。これは唐代の書道家柳公権の篆書である。また、境内に老木が多く、井戸が一眼残存している。唐代にこの井戸から煙が立ち上がり、地下から天上まで繋がって空に漂い浮かんでいたという。故に古伝にいう「草堂煙霧」は長安八景の一つに数えられている。今日、寺は竹林に囲まれ、周辺はとも美しい。



鳩摩羅什像



クマラジュウの舍利塔

佛七時間安排表

十月十四日晚起七

4.00 起床 4.30 早殿 6.00 早飯

7.00 起香 7.45 归位 8.00 止靜

8.45 开靜 9.00 起香 9.30 归位

9.45 止靜 10.15 开靜 10.30 起香

10.50 归位 11.00 止靜 11.30 开靜

11.30 午飯 12.00 午休

2.00 起香 2.30 归位 2.45 止靜

3.15 开靜 3.30 起香 3.50 归位

4.00 止靜 4.30 开靜

5.00 晚殿 6.00 晚飯

7.00 起香 7.30 归位 7.45 止靜

8.15 开靜 8.30 起香 8.45 归位

9.00 止靜 9.30 开靜 9.40 起香

10.00 归位 10.10 止靜 10.40 开靜

11.00 養息

香林寺院

由十月十五日起

至于中華人民共和國章室寺與日本國前寺之間
友好交流則備忘錄：

章室寺位於中華人民共和國西寧市是二座作為姚奈
藏法即為摩訶衍計的寺強物，作為富有悠久歷史
佛教寺利著於天下。

自日本達宗本山國前寺位於大阪市是一世寺為日本
唯二明佛習要計法即木像的所有者，著名的寺院。
此寺近緣故，章室寺和國前寺同意進行友好交流
文衛部未失橋。

雙方寺院今後互相插插着楊章室計法即創造總，立
該能成為中日兩國佛教繁榮而努力下去。

另外，章室寺和國前寺之間互相訪問等具體交流方
法，都包括由雙方佛蘭同意未決送。

神戶立正堂於文化元年二月廿七日

章人民共和國西寧市章室寺方丈釋宏林

日本國之章室寺前寺

秘書長康永院日量





